

仙台市総合計画審議会 第1回まちと活力部会議事録

日 時	令和元年10月30日(水) 18:00~20:00
会 場	仙台市役所2階 第三委員会室
出席委員	飯島淳子委員、姥浦道生委員、遠藤耕太委員、菊地崇良委員、今里織委員、今野薫委員、榊原進委員、庄子真岐委員、竹川隆司委員、館田あゆみ委員、西澤啓文委員、浜知美委員、舟引敏明委員、渡辺敬信委員、渡邊浩文委員 [15名]
欠席委員	なし
仙 台 市 (事務局)	福田まちづくり政策局長、梅内まちづくり政策局次長、郷湖政策企画部長、松田政策企画課長、柳沢政策企画課主幹、千代谷政策企画課主幹
議 事	1 開会 2 部会長選出及び部会長代行指名 3 部会長及び部会長代行挨拶 4 議事 (1) 市民参画事業について (2) 基本計画の検討について (3) その他 5 閉会
配付資料	1 仙台市総合計画審議会委員名簿 2 地域とくらし部会委員名簿 まちと活力部会委員名簿 3-1 市民参画事業について 3-2 せんだい中高生会議報告書 ～仙台市長へ・私たちからの提案です～ 4-1 基本計画の構成イメージ及び部会における検討の進め方 4-2 基本計画の検討資料 4-3 基本的な施策の方向性 参考資料 SDGs(持続可能な開発目標)について 参考資料 仙台若者ビジョン提言書

1 開会

○郷湖政策企画部長

本日は、皆さまお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから「第1回まちと活力部会」を開会させていただきます。

今回がこの部会の第1回目でございますので、部会長が決定されるまでの間、事務局で進行役の方を務めさせていただきたいと存じます。

議事に入る前に、定足数の確認をさせていただきます。

本日は、現時点で15名の委員の方々にご出席をいただいております。定足数を満た

しておりますことをご報告申し上げます。

続きまして委員の変更につきまして、ご報告をいたします。審議会委員名簿を資料1としてお示しいたしておりますが、仙台市議会からのご推薦をいただきまして、新たに5名の委員の方が就任されました。

続きまして資料2の方をご覧ください。部会委員名簿に記載しておりますが、5名の新委員の方のうち、会長の指名によりまして、この「まちと活力部会」には、仙台市議会総務財政委員会委員長の菊地崇良委員、同じく経済環境委員会委員長の西澤啓文委員、同じく都市整備建設委員会委員長の渡辺敬信委員の3名が就任されました。なお、新委員のお席には委嘱状を置かせていただきましたのでご確認をいただければと存じます。

それではお名前をお呼びいたしますので、3名の委員の方々に一言ずつご挨拶を頂戴できればと思います。

それでは菊地崇良委員お願いいたします。

○菊地崇良委員

新たに、審議会委員になりました。この前は都市整備建設委員長として参加しておりました。引き続き今度は、総務、財政の観点から参加できればと思います。よろしくお願いいたします。

○郷湖政策企画部長

続きまして西澤啓文委員お願いいたします。

○西澤啓文委員

西澤でございます。9年前の総合計画審議会も委員として参画をしておりまして、議長をさせていただいていたので、もうないなと思っていたら、また、なぜかこちらの方に舞い戻ってまいりました。新たな気持ちで一緒にいろいろなことに関わらせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

○郷湖政策企画部長

続きまして渡辺敬信委員お願いいたします。

○渡辺敬信委員

渡辺でございます。都市整備建設委員会の委員長ということで、この総合計画審議会の委員の任命を受けましたので、是非皆さまとともに、より良い総合計画の策定にあたって協力してやっていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○郷湖政策企画部長

ありがとうございました。なお、加藤和彦委員、佐藤和子委員は、もう1つの方の「地域とくらし部会」の部会委員となります。どうぞよろしくお願いいたします。

次に、資料の確認をさせていただきます。お手元の方に、座席表、次第、資料一覧、先

ほどの資料1と資料2、資料3-1～3-2、資料4-1～4-3、そして参考資料を2種類置かせていただいております。それから机の下の棚の方に、前回までの主要な資料を綴じました青いファイルを置いております。資料の不足などはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

次に、会議の公開・非公開の取扱いにつきましては、審議会の全体会と同様、公開で進めたいと考えておりますので、ご了承ください。

(了承)

2 部会長選出及び部会長代行指名

○郷湖政策企画部長

それでは、「2 部会長の選出と部会長代行の指名」の方に移らせていただきます。

この部会は、仙台市総合計画審議会条例第6条の定めによりまして、「部会長」は部会に属する委員の互選によって定めることになっております。また、部会長が不在の時にその職務を代行する「部会長代行」は、部会長があらかじめ指名することとなっております。

どなたか部会長にご推薦のある方は、挙手の上、ご発言をお願いできればと存じます。今野薫委員お願いいたします。

○今野薫委員

会議前に資料をちょっと拝見させていただいておりますと、今回、都市個性としての環境という問題が非常にクローズアップされていらっしゃるのかなというふうに感じております。つきましては市の環境審議会委員もお務めでいらっしゃいます東北工業大学の渡邊浩文副学長にお願い申し上げてはいかがでしょうかというご提案でございます。

○郷湖政策企画部長

どうもありがとうございます。ただいま今野委員より部会長を渡邊浩文委員にお願いしてはどうかというご提案がございましたが、皆さまご異議はございませんでしょうか。

(異議なし)

○郷湖政策企画部長

ありがとうございます。それでは渡邊浩文委員に部会長を引き受けいただきたいと思っております。渡邊浩文委員、どうぞ部会長席の方にご移動をお願いしたいと思います。

続きまして、部会長がご不在の時の代行者を、渡邊浩文部会長にご指名いただきたいと思っております。

○渡邊浩文部会長

はい。ご指名いただきましたが、後で一言喋る時間があるようなので、まずは部会長代行を指名させていただきます。私、先ほど環境系のようなこととお話を頂戴いたし

ましたけれども、一方でこれから人口減少ですとかさまざまな変化の時代にあつて、仙台は特に科学技術、テクノロジーを生かしていくという観点が重要であろうというようなことを考えまして、大変恐縮ですが、東北大学の情報知能システム研究センター特任教授でいらっしゃる舘田あゆみ委員に部会長代行をお願いしたいと考えておるのですが、いかがでしょうか。

(異議なし)

○郷湖政策企画部長

ありがとうございます。それでは、舘田あゆみ委員に部会長代行をお願いしたいと存じます。舘田委員、どうぞ部会長代行席の方にご移動をお願いいたします。

3 部会長及び部会長代行挨拶

○郷湖政策企画部長

それでは渡邊浩文部会長と舘田あゆみ部会長代行よりご挨拶を頂戴したいと思います。はじめに渡邊浩文部会長お願いいたします。

○渡邊浩文部会長

渡邊浩文でございます。ご適任の方々がたくさんいらっしゃるだろうと思うのですが、お引き受けいたしました。総合計画審議会の「まちと活力部会」の部会長ということで皆さんのご意見をスムーズに挙げていただくところを大事にしていきたい。僕が何かコントロールするというのではなくて、まずはいろいろなご意見をさまざまにおっしゃっていただくのが仕事なのだろうと一応考えまして、私がコントロールすべきは、8時までという時間を守るということが主なことなのかと思っております。

私から何かということではなくて、これから活発に議論していきたいと思っておりますので、皆さまどうぞよろしくをお願いいたします。

○郷湖政策企画部長

ありがとうございました。続きまして舘田あゆみ部会長代行お願いいたします。

○舘田あゆみ部会長代行

舘田でございます。あくまで代行でございますので渡邊部会長がいらっしゃれば特にやることはないということで、部会長がご欠席のないようお願いできればと思います。

私はテクノロジーの観点でいろいろ意見を述べさせていただいておりましたので、この席になりましたけれども、変わらずいろいろ意見をさせていただければと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

○郷湖政策企画部長

どうもありがとうございました。どうぞよろしくをお願いいたします。審議会条例の定め

によりまして、部会長が議長となることとなっておりますので、ここからの進行は渡邊浩文部会長よろしく願いいたします。

○渡邊浩文部会長

さっそく始めていきたいと存じます。先ほど事務局より説明があった通り、全体会と同様に、この部会も公開で進めてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それから部会についても、議事録をきちんとまとめるということでございますので、本日の会議の議事録について、署名をお願いする方を指名しなければいけません。こちらについても全体会と同様に名簿順ということにいたします。そうすると遠藤耕太委員がこの議事録署名の番だということですので、お願いしたいと存じますが、よろしいでしょうか。

(了承)

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。それから議事に入る前に事務局から報告があるということですので、まずは事務局からお願いいたします。

○松田政策企画課長

それでは議事に入る前に1件ご報告を申し上げたいと思います。

仙台市に提出されました提言書について、ご報告をさせていただきます。本日お配りしております資料の1番下に、参考資料として、「仙台若者ビジョン提言書」というものを置かせていただいております。こちらなのですが、せんだい未来会議という団体から仙台市に提出された提言書でございます。せんだい未来会議という団体は、大学生や社会人などのメンバーを中心としました市民活動団体でございます。若者の意見を集めて政策立案をして、まちづくりに関しての提言をまとめられたということで、7月5日に本市の市長に提出があったものでございます。20年後のビジョンであるとか、それから他都市の事例なども参考にした政策集など、かなり具体的な内容となっておりますので、どうぞ今後のご審議の参考としていただければと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございました。この提言書そのものについて、この議題に挙げるということはいたしませんけれども、せっかく若者たちが勇気を奮って提出されたものだと思いますので、お時間がある時にご覧いただいて、この部会での議論に生かせるべきところは生かすというような立ち位置で見ておくというところかなと思っておりますので、ご覧いただければと存じます。

4 議事

(1) 市民参画事業について

○渡邊浩文部会長

それでは議事に入ります。次第にあります議事の（１）ですが、市民参画事業について取り組んでまいります。こちらの資料をご用意いただいているということですので、事務局よりまず説明をお願いいたします。

○松田政策企画課長

それでは資料3-1と3-2についてご説明申し上げます。まず資料の3-1をご覧ください。こちらですが7月に第6回の審議会で審議経過をいったん取りまとめたところがございますけれども、その後、本日までに行いました市民参画事業について、まとめてご報告させていただくものでございます。

まず1の「せんだい中高生会議」ですが、通常の全市イベントではなかなかご意見をいただく機会がない、中学生・高校生の世代から市長に政策提言をいただいたものでございます。詳細は次の資料3-2の報告書としてまとめておりますので、後ほどご高覧いただきたいと思っておりますけれども、大変活発なご意見を当日頂戴しまして、例えば提言として、「学校開放をして是非そこで学習をしたい、学びの機会として学校を開放してほしい、そして地域でそれを管理するというのはどうであろうか」というような提言であるとか、「仙台市の年間を通したさまざまなイベントについて通年で1つのテーマに絞ってイベントをすると盛り上がるのではないか」とか、それから「ボランティア活動を通して人のつながりづくりができるのではないか」と、本当にさまざまな、多方面からの話し合いがなされたところでございます。

2の「東北における仙台のあり方と地域づくりシンポジウム」ですが、こちらは本市が今年市制施行130周年、それから政令指定都市・区政移行30周年を記念したシンポジウムを開催したというものでございまして、テーマが「東北における仙台のあり方や地域づくり」ということでして、この審議会でもさまざまなご意見をいただいていたテーマでもございますことから、ここに掲載させていただいたところでございます。当日はシンポジウムのほか、これまでの仙台市の歩みを示すパネル展示も行ったところです。

3が「市民まちづくりフォーラム」です。こちらは審議経過における7つの視点に関連して、市政に着目した8つのテーマを取り上げて話し合いを行ったものでございます。

最後の「全市民アンケート」ですが、こちらは9月号の市政だよりにはがきを綴じ込みまして行ったもので、7,000件を超えるご意見を頂戴したところでございます。2、3、4に関する報告書につきましては、現在取りまとめ中でございまして、次回の部会には提出したいと考えております。

なお、事務局としての所感ですが、全体として、イベントには定員を超える申し込みがあったというところでありまして、市民参画の意識が高まってきているものと感じております。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。定員を超える申し込みということで良かったなと思います。報告書もいずれ出てくるということであるので、それを待ちたいとは存じますが、今日の委員の中には当日ファシリテーターですとかパネリストとかで参加された方もいらっしゃる

るということですので、よろしければ感想などを一言ずついただければと思うところです。
はじめに、2の「東北における仙台のあり方と地域づくりシンポジウム」にパネリストとして出席された飯島委員からお願いできますでしょうか。

○飯島淳子委員

「東北における仙台のあり方と地域づくりシンポジウム」に参加させていただきましたので、一言ご報告申し上げます。こちらのシンポジウムでは株式会社 VISIT東北の齊藤良太さんからご講演をいただいた後、パネリストも加わって議論を進めました。先ほどのせんだい未来会議の代表である大学生の佐藤終さんも参加され、活発な意見交換がなされたところです。講演者、パネリストがそれぞれの立場、考え方からディスカッションをし、特に1つの何かを提示するというものではありませんでしたけれども、幾つかキーワードらしきものも出てきたように感じました。

例えば、人口のダム機能でありますとか、仙台の武器は何なのか、二番煎じにならないであるとか。また、地域愛ということがずいぶん前面に出されまして、市民主体とか市民自治参加、協働といったこともキーワードとして浮かび上がってきたかと思います。

もう1点、質疑応答の時間が元々ない予定ではあったのですが、お1人の方が総合計画についてご意見を述べられました。このシンポジウムでは総合計画について恐らく一言も触れていなかったのですけれども、非常に強い問題意識を持った方もご出席いただいていたということで、そういう意味でも勉強になりました。

○渡邊浩文部会長

それでは市民まちづくりフォーラムの方にファシリテーターとして参加されたというか、ファシリテートしていただいたというべきですね。浜委員が出ていらっしゃるのです、浜委員からもご感想等々いただければと思います。

○浜知美委員

全体的に、市にこうしてほしいという意見ではなくて、私たち市民がどうしていくべきかという意見が活発になされた会だったなという印象を持っています。

私は多文化共生という分野でファシリテートさせていただいたのですが、具体的には、例えば中学校区の地域と外国人のコミュニティーが直接つながると、そこからいろいろな交流が生まれて、より仙台が良くなるという意見や、学生さんも参加されていたのですけれども、教育の分野で多文化共生をたくさん取り入れてほしいという積極的な意見が出ました。

少々残念だったのが、多文化共生社会なので、外国人の人と一緒にいろいろなトークができれば良かったのですが、外国人の参加の人が少なかったなのでその部分は残念だったかなと思っています。全体的に市民の皆さんからはこういった話し合いの場をたくさん設けてほしいという意見もありましたし、後は外国人だけではなくて、多様な人たちが話し合う場を設けるのが、これから良いのではないかというふうに実感しています。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。せっかくの機会ですので質疑等々あればお受けしてとも思っておりますけども、いかがでしょうか。当日こっそり参加してこんな印象を覚えたというようなご意見をお披露目いただくのもありかなと思うところですが、よろしいですか。

では、まずは進めていくことにいたしましょうか。なお、4の全市民アンケートにつきましては、お手元の資料にあるように10月18日に締め切ったということで、以後、第2回の部会でこの結果なども報告されるとの予定でありますので、引き続きよろしく願いいたします。

(2) 基本計画の検討について

○渡邊浩文部会長

それでは次第の議事の(2)です。今日のメインの部分になろうかと思いますが、基本計画の検討に移りたいと思います。こちら資料をたくさん用意していただいておりますので、まずは事務局からご説明いただきたいと思います。

○松田政策企画課長

資料4-1、4-2、4-3をまとめてご説明させていただきます。

本日の審議のメイン資料は4-2になるのですが、まずは資料4-1によりまして基本計画の構成のイメージ、そして下の方になりますが、これから部会において、どのような進め方でご議論いただくかというところをご説明申し上げまして、委員の皆さまとその認識を共有した上で、あらためて資料4-2をご説明したいと思います。

資料4-1ですが、上段に構成イメージがあります。構成イメージですが、前段の「はじめに」というところ、そして「時代背景と本市の現状」をいったんお示ししまして、これを踏まえた上で「新たな杜の都に向けて」というところで目指す都市の姿をお示していくというふうに考えております。

その下の「本市が大切にする姿勢」のところですが、こちら目指す都市の姿の実現に向けまして、さまざまな施策プロジェクトを進めていくにあたって、仙台市が大切にしている基本姿勢をお示しするところでありまして、この姿勢をプロジェクトや施策にも織り込んでいくというふうな段取りで考えております。

その下が「重点プロジェクト」になります。こちらが審議経過でおまとめいただきました7つの視点、そしてそれぞれの取り組みのイメージがあったかと思いますが、そちらを踏まえまして、今回6つのプロジェクトにそれらをまとめ直してお示しさせていただきます。部会ではこのプロジェクト部分を重点的にご審議いただきたいというふうに考えております。

その下の「基本的な施策の方向性」ですが、こちらはプロジェクトに関わる施策以外の施策も含めまして、網羅的に施策の方向性をお示しする部分でございます。その下に、現在区の方で、区と私どもでいったん検討させていただいております「区別計画」、そして「進行管理の方針」などが連なる形でございます。

次に「審議の進め方」でございますが、下段の方をご覧いただきたいと思います。総合

計画につきましては、来年度の夏頃にいったん中間案を取りまとめして、パブリックコメントを行う想定で考えております。そこに向けまして、まずは年度内におおむね3回の部会で議論を深めていただきまして、来年度当初に開催予定の第7回審議会、こちらは全体の会になりますが、第7回審議会におきまして、まずは「基本計画中間案の素案」を取りまとめたいと考えております。その後、この表にはございませんが、引き続き全体会を重ねまして「中間案」として肉付け、精査をしていきまして、先ほど申し上げたように来年度夏頃には中間案の公表とパブリックコメントにつなげてまいりたいと考えております。

本日の第1回部会では、まずはこれから重点プロジェクトをご審議いただく上で、その前提となります、どのような都市を目指していくのかという「目指す都市の姿」、そしてその実現に向けて大切にしていきたい基本姿勢である「本市が大切にしたい姿勢」について、共有を図るためのご議論をまずはお願いしたいと考えております。重点プロジェクトにつきましては、本日もご意見をいただきたいと考えておりますが、特に次回の第2回、そして第3回の部会でも集中的にご審議いただく、そのようなスケジュール案となっております。

こちらを踏まえまして、本日のメイン資料であります資料4-2をご覧くださいと思います。こちらは前回いったん取りまとめました審議経過の内容、そしてこれまでのご意見を、基本計画の構成、完成のイメージに近づけながら再構成をさせていただいたものでございます。

1ページ目をお開きください。「はじめに」の部分がありますが、こちらは審議経過でまとめた内容を基本的な文章のところはほぼそのまま掲載している部分でございまして、計画策定の目的やこれまでの本市の歩み、これまで培った資源や知恵を生かしつつ、新たな価値観を生み出す転換の必要性等について、関連データが2ページにございますが、そのようなものと一緒に掲載しているところでございます。

続きまして4ページをお開きください。4ページは「時代背景と本市の現状」でございまして。現時点ではまだ項目出しの段階ですが、今後のご審議も踏まえながら加筆してまいりたいと考えております。時代背景としては、人口の推移、そしてSDGsの広がりについて、また、仙台市のこれまでの歩みにつきましては、現在の総合計画にはない震災と復興についても丁寧に記載してまいりたいと考えております。3につきましては、課題認識だけではなく、仙台市の強みもきちんとここにお示しをし、この後の4つの「都市個性を活かしたまちづくり」につなげていきたいと考えております。

5ページをお開きください。5ページからは目指す都市の姿、都市像をお示しする部分でございまして。まずは審議経過で取りまとめました内容とともに「挑戦を続ける、新たな杜の都へ」というフレーズをまちづくりの理念として追加させていただいております。これは、これまでの6回の審議会でもご意見いただきましたように、これからの変化の大きい時代背景を踏まえまして、従来型の施策をこなしていくというスタンスではなくて、変化に対応しながら新たな課題に対し挑戦を重ねていくというご意見を踏まえたものでございます。

また、6ページ以降は、審議経過で取りまとめました4つの都市個性について改めてこちらに掲載するとともに、今回はそれぞれの都市個性を切り口としまして、具体的にどのような都市を目指していくのかということを表すフレーズを追加しております。「環境」

におきましては「世界を牽引する環境防災都市へ」、7ページにいきまして「共生」を切り口にしましては、「多様性が社会を動かす共生のまちへ」、8ページ「学び」につきましては「学びと挑戦の文化が根付くまちへ」、そして最後9ページ「活力」を切り口にしましては、「東北の活力を生み出す創造のまちへ」ということでいったんは表現させていただいております。

そして10ページをお開きください。こちらは施策全般に共通する、「本市が大切にする姿勢」を掲載しております。チャレンジと協働、そして多様性を活かす視点につきましてはこれまでの審議でも多々ご意見を頂戴しておりまして、1に「チャレンジ協働まちづくり」、そして2に「多様性が活きるまちづくり」としましてお示しをしております。

また、3ですけれども、これまでのご審議の中でも、東北の中の仙台という視点の重要性であるとか、または地域での目線というのも重要であるというご意見も頂戴しておりますので、これらを「大都市としてのまちづくり」として3にまとめさせていただいております。

11ページをお開きください。11ページの4つ目の「持続可能なまちづくり」は、ご意見をいただいてきましたSDGsの視点や、7月にまとめた審議経過の中では「今後の協議課題とする」ということでいったん整理しました、安定的な財政運営などについてここに掲載させていただいておりますので、是非ご議論いただきたいと思いますと考えております。

以上、ここまでの部分、1ページから11ページまでは、第1回審議会以降、これまでご審議いただいてきた「都市像とまちづくりを進める上で大切にしたい価値観」をこのような形でまとめ直した部分となっております。

そして13ページからが今回新たにお示しするプロジェクトの部分になるのですが、そちらの説明に入る前に、12ページをご覧いただきたいのですが、審議経過の7つの視点と今回新たに整理し直してお示しをする6つのプロジェクトとの関係性を整理しております。1に審議経過でまとめました7つの視点を再掲しておりまして、2には今回お示しする6つの重点プロジェクトがあります。そして2の6つのプロジェクトの右側には、視点の掛け算、その中でも中心となる視点はどれなのかを整理させていただいております。

お示しの通り、上の視点①から⑦それぞれに沿ったプロジェクトとなっております。ただし、視点②の「仙台でともに活きる～多様性が活きるまちの実現～」につきましてはやはり多様性の観点は施策全般に共通して織り込んでいくべきものであるところがありましたので、ここで1つのプロジェクトを起こすのではなくて、多様性に関しましては先ほどご説明した通り「本市が大切にする姿勢」の1つとして整理をさせていただいたところがございます。

3の部会が所管するプロジェクトでございますけれども、7つの視点の時には「②仙台でともに活きる」の視点を共管としまして、あとの6つについては部会で3つずつ分担することとしておりました。その観点でそれぞれの部会の所管をプロジェクトベースで整理させていただき、一番下にお示ししております。「まちと活力部会」はこれからご説明申し上げますがプロジェクトの1、5、6を中心に所管するという整理をしております。

では13ページをお開きください。13～14ページは「未来へつなぐ防災環境都市プロジェクト」でございまして、7つの視点のうち「仙台を磨き伝える～世界に輝く杜の都の深

化と継承～」)。こちらに沿ったプロジェクトでございます。防災環境都市のブランド力の向上と世界への発信を目指したものでございまして、施策の方向性の例が書いておりますけれども、ひとつづくりであるとか、脱炭素やプラスチック資源の循環、そしてインフラ整備に向けた長寿命化であるとか耐震化のまちづくり、また、「防災環境×グリーン」の観点では、緑や公園などの資源の活用に着目した施策や、その下「×チャレンジ」としては都市ブランド力の向上、そして先端技術を取り入れた防災ビジネスの活性化を例として挙げております。

以降は、参考としましてこのプロジェクトに関連するこれまでの審議会における意見を掲載させていただいているところでございます。

続きまして 15～16 ページをご覧ください。こちらは「みんなでつくる地域未来プロジェクト」でございまして、7つの視点のうち、主に「仙台で暮らす～地域コミュニティーの強化～」、この視点に沿ったプロジェクトでございます。人口減少・高齢化の進展などを踏まえまして、さまざまな主体の方々と連携した地域づくりのための施策の方向性を示しております。地域における支え合いや、今後一層重要となってくる地域交通について、また、未来技術や企業と連携した取り組み、そして「地域×交流」としましては、資源を活用した交流づくりなどを掲載しております。

続いて 17～18 ページをご覧ください。こちらが「笑顔はなまる子どもプロジェクト」でございまして、7つの視点のうち主に「仙台で育つ～子ども・子育て応援まちづくり～」に沿ったプロジェクトでございますが、一部「仙台で学ぶ・活かす」の視点も含まれております。子どもが笑顔になれるような環境づくりと、子育てを応援するための施策の方向性について、ここにまとめております。まず「子ども×社会」の視点では、いじめや不登校などの諸課題への対応や貧困家庭への支援、そしてまた、家庭の視点では子育て家庭への支援策、「×未来デザイン」としましては生きる力と地域への愛着を育むための施策、そして最後「×FUN」としましては、子どもや子育て世代が楽しめる環境づくりをここに掲げておまして、課題対応だけではなくて、やはり「仙台で子どもを産み育てたい」と思われるようなポジティブな視点もこの中に盛り込んでいきたいと考えております。

そして 19～20 ページが「いきいきライフデザインプロジェクト」でございまして、7つの視点の中の「仙台で学ぶ・活かす」を中心に、「仙台で暮らす」であった地域課題解決の視点であるとか、それから「仙台で働く」の視点の一部も加えまして、このような形で再構成させていただいております。施策の方向性の例としましては、「×地域デザイン」としまして教育機関の知見や若者参加による課題解決について、また、その下の「×キャリアデザイン」としましては、多様な働き方の応援やリカレント教育を。そして起業支援についてもここにまとめております。また、その下が高齢者や障害者の活躍促進に向けた施策、そしてその下が全世代の健康づくりについてスポーツ振興やICTとの連携による施策をお示ししております。

続いて 21～22 ページ、こちらが「TOHOKUチャレンジプロジェクト」でございまして、7つの視点のうち「仙台で働く」の視点に沿いつつも、東北の中の仙台の強みを生かした役割、果たすべき役割の観点から施策をまとめ直したものでございます。科学技術イノベーションの観点からは次世代放射光施設や大学の知的資源の活用、社会起業家など

ソーシャルイノベーションの視点の施策、そして広域観光に向けた施策とともに、本市や東北においては若者の首都圏への流出が課題となっておりますことから、「×若者」の施策も一番下に盛り込んでおります。

続いて 23～24 ページが「せんだい都心再構築プロジェクト」でございまして、7つの視点のうち「躍動する仙台を創る」に沿ったプロジェクトでございます。「×イノベーション」としまして、内外から投資を呼び込むためのビジネス環境の整備や新たな事業創造を支援する取り組み、そしてリノベーションの視点としては公共空間の利活用やクリエイティブ人材の育成等、そして都心の回遊性に向けましては面的な賑わいの創出や通りの特性を生かしたエリアマネジメントなどについて、そして防災環境都市にふさわしい都心づくりにつきましても最後に掲載しております。以上が6つのプロジェクトでたたき台として今回お示しをさせていただくものでございます。

そして次の 25～26 ページでございしますが、こちらが「基本的な施策の方向性」を記載しているところでございます。先ほどの6つのプロジェクトは施策全部を網羅しているのではなくて、これからの10年間の時代背景に着目して、それを反映するようなものをピックアップしてプロジェクトとしてまとめておりますけれども、そこからこぼれ落ちる施策は多々ございますことから、こちらに網羅的にまとめ直したものがこの基本的な施策の方向性でございまして。現時点では4つの都市像ごとに、「環境」「共生」「学び」「活力」ごとにそれぞれの施策を網羅的にまとめております。資料4-3がこの部分を表形式でまとめたものとなっております。内容的には同じものになっております。

資料4-2の27ページ。最終ページにお戻りいただきたいのですが、最後に、現在各区で素案作成を進めております「区別計画」がここに続きます。そして基本計画を作った後の「進行管理の方針」や「資料」が続くということを想定しております。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。今日から部会が始まったわけですが、全体会の方の審議会でこれまで6回分の審議内容を審議経過として中間取りまとめ的にまとめて確認したわけですが、資料4-1の特に下の段にあるように、こちらの部会は、先ほどご説明あったように今日を含めて年度内に3回ほど開催する予定だということを確認いたしましょうということです。それからこの表の右の欄に第7回審議会、全体会中間素案とありますが、来年度の夏前ぐらいまでに、中間案として取りまとめる予定であるということです。

部会では、事務局から説明いただいたこれら資料、特に資料4-2、ホチキスで留めてある検討資料となっている、これを完成品として何となくイメージしながら、これをブラッシュアップし、精査しながら積み上げていく、中間案として完成に近づけていくというような形で進めていきたいと考えています。

さっそく意見交換に入りたいところではあるのですが、資料も膨大ですし、事前にお送りいただいたとはいえ、初めて提出された資料でありますので、まずは皆さんが気付かれたところ、考えるところをいわゆるフラットに表現いただくというのでしょうか、忌憚なくご意見をお寄せいただきたいと思っております。けれども、ボリュームが非常にある部分ですので、目次のローマ数字のIからIXの資料編も含めれば9章に分かれているわけで

すので、ある程度まとまりごとに議論を進めていって、さらにその上で時間に余裕があれば、遡ってですとか、忘れていたところをさらにご指摘いただくというように、進めていこうかと考えております。

目次ですと、ローマ数字のⅠ章とⅡ章でひとまとまり。Ⅲ章とⅣ章が今日のメインターゲットですので、Ⅲ章とⅣ章はそれぞれ15分くらいかけて。Ⅴ章の重点プロジェクトもたくさんご意見おありだろうと思いますので、十分時間をとって取り上げて、その後のⅥ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸここまではまとめて若干時間を取るというように、ある程度時間を区切って進めていこうかと考えております。よろしいでしょうか。

ではさっそくですが、このⅠ章の「はじめに」とⅡ章の「時代背景と本市の現状」ということで、ページでいいますと1ページから4ページになるわけですが、ここはまとめてご議論いただきたいと思います。1ページ目にあるⅠの「はじめに」については先ほどご説明いただいた通り、いわゆる審議経過で書かれていたことがほぼそのままだということではあります。Ⅱの「時代背景と本市の現状」の部分については新たに加筆された部分だということでもあります。ただ項目を挙げたという段階でもあるということでしたが、Ⅰ章の部分とⅡ章の部分、1～4ページまでについて、まずはご意見頂戴したいと思います。その後のⅢ、Ⅳ、Ⅴのところは十分時間を取りたいので、可能であれば5分くらいで進めたいなと考えておるところですが、まずこのⅠ章、Ⅱ章の部分についてご意見ある方、挙手願えればと思います。いかがでしょうか。

竹川委員、どうぞ。

○竹川隆司委員

Ⅰは少々細かい点なので別途メールさせていただくとして、Ⅱが新しいということですので、幾つか感じた点をざっくばらんにお話しさせていただければと思います。これをぱっと読むと、何となく正しそうに見えますというのがファーストインプレッションなのですが、例えば、課題認識にしても、強みにしても、何でこれがピックアップされたのかというのがさっぱり分からないというのが、細かく読んでいった感想でございました。なので、何らかの数字的裏付けとかデータの裏付け、これが選ばれる基準、絶対客観的基準というのが必要なのではないかなと思いました。もしそれがあるのでしたら教えていただきたいですし、それがなければ、数字的な証拠みたいなものが全部について、必要なのではないかなと思いました。

後は、特に仙台市の強みというところなのですけれども。これは東北地方の中で見た時の仙台市の特徴を言っているのか、全国と比べた時の仙台市の強みを言っているのかが、ちょっとよく分からなくて、両方混じっている気がします。例えばICT関連の企業は集積しているのか。全国から見たら違うけど東北の中でそうですよねとか、産官学の連携とか本当にできているのかなとか。証拠もないし、何と比べているのかというのが少し分かりにくいので、基準と整理の仕方というのを、全体的なところとしては考えた方がいいのかなと。具体的には仙台市の強みと言っても、東北地方の中での強みと全国の政令指定都市と比べた時の強みで分けるとか、そういう整理の仕方が必要なのではないかなというふうに感じました。細かい点はいろいろあるのですけれども、大枠はそういうところが最

初の感想です。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。細かな点というのは、別途お申し出いただくということでもよろしいですか。時間があつたらここで言っていた方がよいと思いますが。

網羅的にしなくて結構ですから、話してください。

○竹川隆司委員

分かりました。「はじめに」というところ、1 ページ目は実は読んでいて3つほどありまして、これまでの議論で何か出ていたら申し訳ないのですが、1つは3段落目の「近い将来」で始まる場所に関して、幾つか並列になっているところですが、確実に受けることになる人口減少の影響、グローバル化、持続可能性というのが並列になっていない気がしています。最初の確実に受けることになる人口減少の影響というのは、たぶん「人口減少をはじめとした社会課題の深刻化」のような、もっと広い概念に変えた方がよいのではないかなというふうに感じたのが1点目。

2点目はその次の段落なのですが、最後の方に「都市力」と出てくるのですが、これがウェブで調べてみても森ビルの系列の研究所が作った言葉でしか出てきません。ぼんやりしているなというか、何なのかよく分からないということであると、ここの「はじめに」でそういう言葉を使うのはどうなのかなと思ったので、「まちづくりの理念を活かして次なる時代を生き抜いていかなければなりません」というような表現、「都市力」を使わない表現にした方がよいのではないかと思いました。

一番後に「本市では誰もが豊かに暮らせる仙台の未来に向けてまちづくりを進めていきます」とさらっと書いてあるのですが、その右上にある成長期、成熟期、次なる時代という分け方の中で、「豊かさ」について、上の方で成長期は物質的な豊かさですと、成熟期は心の豊かさですということを行っているのですが、次なる時代の豊かさは定義されてないのです。さらっと「豊かさ」と言ってしまういいのかなというのが思った点なので、「誰もが豊かに」と言うのであれば、「誰もが自分らしく豊かに暮らせる」とか、何か違う言い回しにした方がよいのではないかなというのが、「はじめに」で感じた3点になります。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。事務局から何かありますか。

○松田政策企画課長

まず今の1 ページのところのご指摘については、たしかに十分言葉が精査されていない、全体の流れの中でも整理がされていない部分がたしかにあるというところがありましたので、ご指摘いただいたところについては、改めて検討させていただきたいと考えておりました。

それから4 ページの課題認識や強みについて、数字や裏付けデータというところがあり

まして、今日ここにお示ししていないのですが、数字でお示しできるものの中にはあると思います。それを最終的にどういう形でこの本体に盛り込んでいくのか、それとも資料編に持っていくのかというところの整理はいずれあるかと思いますがけれども、そちらの方についてもきちんとイメージだけではなくて、裏付けをきちんと確認しながらこの文章を作っていくと思いますし、強みについてはご指摘の通り、東北の中のポテンシャルというところもあれば、市民協働、やっぱり全国の中でも仙台が先駆けてきたよねというところもあります。そちらについてはたしかにどのエリアでの強みなのかってことが混ざっているところがありますので、加筆していく中できちんと書き分けをしてきたいと考えております。

○渡邊浩文部会長

まずはよろしいでしょうかね。ありがとうございます。

そのほかⅠ章、Ⅱ章についてご意見がおありであれば是非頂戴したいところですが。

飯島委員、どうぞ。

○飯島淳子委員

短く2点だけ申し上げたいと思います。まず3ページ、計画の対象のところでの人的な対象を幅広く設定しているように読みました。いわゆる準住民、団体、また、交流人口、関係人口といった人的な対象の設定がなされています。これらの方々にもまちづくりの指針を共有するというので、どのようにメッセージを発するかということも併せて考えていかなければならないと存じます。

2点目は、4ページ1の時代背景の最後に、2025年問題とあります。最近はよく2040年問題といわれています。計画期間が2030年までということなので2025年問題と書いているのだと思うのですがけれども、2050年までを見据えた計画なので、2025年問題で留めてよろしいのか。以上2点でございます。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。何かありますか。そうだなという感じがしました。

○松田政策企画課長

ご指摘のところはたしかにございますし、2050年を見据えた都市像を描きつつ、10年間何をしていくかというところがこの総合計画でございますので、こちらもすみません、加筆をしていく中で丁寧に書かせていただきたいと思いますと思っております。

○渡邊浩文部会長

このⅡ章の部分については先ほど来、ご意見も出ているところですけど、たぶん書き込んでいくと、よりその問題点がはっきりしてくるのかなと思っておりますので、引き続き見守っていきましょうというところかと思えます。

ほかよろしいですか。菊地委員どうぞ。

○菊地崇良委員

1 ページの「誰もが豊かに」というのは私も同意です。ここはよく考えて欲しいなど。

それから3ページの「計画の対象」なのですが、さまざまな方々を対象ということにも異論は全くないのですが、以前も申し上げたのですが、住民自治の原則をこれによって、覆すと言いますか、それを侵犯することが無いような書きぶりに今後の本文の中における反映をしっかりとっていく必要があるというふうに思います。

細かい話をすると、4ページの時代背景の順番。人口の動態から始まるのですが、書き順を区分ごとに少し整理し直した方がいいのかなと。人口の話でしたら人口の話を上の方にして、最後に将来のSDGsとテクノロジーの進展というふうに、時系列に応じた書き方をした方がいいのかなと。

もう1つはⅢの課題認識の一番下に、「様々な都市インフラの老朽化」ということが、2つ目の「都市部の建築物の老朽化」と同じように出てきます。ここの最後の項目は、お金がいっぱいかかる、財政が大事ですよということを言いたくて書いたと思うのだけでも、都心インフラの老朽化だけでなく社会保障費の増大というものもあるので、将来財政が厳しくなるということでこういうふうを書くのであれば、社会保障の話も入れるべき。

それから仙台市の強みの、下から2つ目ですが、暮らしやすい都市環境の中、括弧内に「交通機関の充実」とあるのだけでも、こういうふうを書いていいのかなと。たしかにクロス十字の東西線はできたのだけでも、地域に2次交通の話も含めていろいろ問題があるので、こういうふう書き切ってしまうといいのかなというのがありまして、ここはよくもう1回検討を。ここでしないのであれば本文の中でしっかり反映をしていくべきと思います。

○渡邊浩文部会長

事務局からよろしいでしょうか。

○松田政策企画課長

ご指摘を踏まえまして精査をしてみたいと思います。ありがとうございます。

○渡邊浩文部会長

いかがでしょうか。Ⅲ章、Ⅳ章の方にも時間を割きたいので次に進められればと思いますが、もし何かあれば、よろしいでしょうか。ではまずは先に進めさせていただきます。

次は3章です。5ページから9ページにかけてまとめられています。「新たな杜の都に向けて、目指す都市の姿」という章です。ここの部分につきましては、総合計画審議会、全体会の方では、審議経過というものをまとめておりまして、その中では「まちづくりを進める上で大切にしたい価値観」という表現で、「環境」「共生」「学び」「活力」という4つの都市個性というところまでずいぶん議論をしたことを皆さまもよく覚えていらっしゃると思います。今回は「目指す都市の姿」と副題が入っていますが、新たに4つの都市個性に紐付けて、下の半分のところを書いてあるように4つの都市像というところを打ち出してあって、さらにそれにまずはキャッチフレーズ的な文言も併せて記載しているとい

うところが特に目に留まる場所かと思えます。この文言のご意見も後で頂戴したいところなのですが、その前にこの都市個性と都市像という、このような関係付けをするような、このいわゆる立て付けの部分についてまずご意見をいただき、その後、個別の表現についての議論というふうに、議論の中身を分けて進めていきたいと存じます。ここもさまざまにご議論があらうかと思うのですが、おおむね10分から15分ぐらいを目処に進めていきたいと思えます。

まず先ほど申し上げたように、その立て付け、個性から都市像というような関連付けのさせ方、その立て付けで良いかなど、そういったところについてまずご意見をいただければと思えますがいかがでしょうか。これもまたご遠慮なく挙手いただければと存じます。

榊原委員、どうぞ。

○榊原進委員

今、審議経過と見比べてみました。この4つの都市個性に関して、「環境」となっている部分は最初「杜の都」となっていたと思えますが、これら4つ全部を掛け合わせることで新しい杜の都になるのではないかという経過があったと記憶しています。僕もこの4つから「杜の都」が抜けてどうするのかなど思っていたのですが、今回「新たな杜の都」に向けてと示され、挑戦は続けるというのがすごく野心的に感じますし、4つの個性をさらに掛け合わせることで「新たな杜の都」に深化していくのだというメッセージは、何かこういう形では伝わるのではないかなという印象を持ちました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

大枠の良否を判断できるほど議論は進めていませんけども、やはりその文言の表現というのもやっぱりセットで大事だということもあらうかと思えますので、その文言ですとか書きぶりみたいなどころまで少し議論の範囲を広げて、議論していこうというふうにも思えますが、そういったところまで広げるとどうでしょうか。いろいろ目につくところもおありなのではないかと思えますが。

舟引委員、お願いします。

○舟引敏明委員

最初の審議会の時からずっと同じことを申し上げているのですけれども、今日初めての方もいらっしゃるので、よそ者、特に仙台と縁がないという立場で、全国の都市計画とかいろいろ見てきた中で、私のスタンスを常に申し上げます。

今日の冒頭にもありましたけれども、まずは仙台が元気になって、元気をずっと続けて欲しい。それで、提言でもありましたが、仙台には東北の人口ダムになってほしいというのが最大の願いです。人口は減っていきます。そうすると経済活力を残していくためには交流を増やす。外の人に仙台に住んでもらう。そういう魅力あるまちにしていかなければいけない。それも東北の中で一番ではなくて、日本の中で一番でもなくて、世界に通用す

る「SENDAI」という魅力あるまちにしていけないと世界から人が呼び込めないのではないのでしょうか。

一方で、では今の仙台がそこまで行っていますかということ。環境の面で言うと国内で比較優位ぐらいには立っているけれども、放っておくと優位がどんどん無くなって、今のままでいくと札幌だとか大阪だとか北九州だとかどんどん取り組んでいるところに負けてしまって、杜の都はどこ行ったのというふうになりかねないというのが私の一番の危機感です。

そういう意味で、それでは仙台をどういうふうの外にアピールしていくのだということいろいろな盛り込んで、この6ページの表現になっているのですけれども、そういう高いレベルの目標がきれいさっぱりどっか行ってしまったなど。中に住んでいる人が良い環境だと思っていることを書き連ねているだけなので、これで本当に未来につながるのだろうかというようなことが1つ目です。

市民向けにはこれで全然問題ないと思うのですけれども、では、これを外国の人になんと言うのだろうかと思います。文言の話で言うと、「世界を牽引する」という表現も上から目線に感じます。そして何を引っ張っていくのか。目的語がないのに牽引すると書いてあります。

その次にものすごく気になるのは「防災環境都市」。防災と環境という言葉を書いたらそれで全部対応したかのように錯覚させるような言葉と思うのですけれども。仮にこれが仙台の未来の像だとすると、これを英訳したらどうなると思いますか。最初に出てくる言葉が「ディザスター・プリベンション」。要は仙台とはたくさん災害が起きるまちなのだという印象からどんと入ってくる。誰がそんなところに行くのでしょうか。環境という言葉も非常にいいのですが、価値概念がない言葉なので、良い環境と悪い環境の両義に取れるので、本当はその仙台の高い魅力の価値を伝えるような言葉をここできちんと使っておかないと、今取り組んでいることの単なる羅列になってしまいます。文章の中では質の高い快適な生活環境とか風格があるとか、私の提案したことを入れていただいて非常にありがたいのですが、僕が考えてなくて、市の最初の資料にあった「グリーンインフラ」という言葉がこれもまたきれいさっぱり施策の1つになっています。グリーンインフラの例ですが、例えば今回の台風19号では水害で浸水し、大きな被害が出たところがありますけれども、仙台は比較的被害が少なかった。七北田川が野村小学校の南側で氾濫しましたとニュースで知って、翌朝すぐ見に行ったのですけれども、基本的にはそこは市街化調整区域ですし、原則農地ばかりなので、浸水はしましたが大きな被害にはなりません。そんなふうにその自然をうまく取り込んで災害を防いでいくという根本的な発想の考え方が「グリーンインフラストラクチャー」や、前に申しあげましたけどEco-DRRというような考え方で、本当はそのぐらいのことからこの項目は説き起こしていつ、それで世界をリードするプロジェクトをこの中に書き込んで、それをもってシティープロモーションまで持っていくというようなことが必要なのではないのでしょうか。ちょっと長くなるのでこの辺でやめておきます。そういう意見でございます。

ありがとうございます。事務局から何かありますか。

○梅内まちづくり政策局次長

「防災環境都市」という表現は市の中では震災復興計画の時から使っておりまして、仙台防災枠組など国連の決定もあったので、それで使っている用語でございます。今まさに舟引委員からありましたけども、政宗公のまち開き以来、自然の地形の形、あるいは緑とかですね、水の制御といったようなことをまちづくりの中に生かしながら仙台がつくってきたところ、あるいは今回の大震災においても以前の宮城県沖地震などで取り組んできたこと、あるいはその反省を生かして進めてきたさまざまなインフラの防災機能とか、市民の皆さまとずっとやってきた防災訓練とかをはじめとするさまざまな取り組みにより被害を最小限に抑えてきました。しかしそれでも自然の猛威の前に大きな被害が出たのですけども、それを乗り越えてきました。災害であったり、一時期は戦争であったり、そういったものからの立ち直りの中に、市民とともにまちを作ってきた歴史があるという意識がございます。防災というと災害がそこにはあるということはおっしゃる通りなのですが、防災文化の醸成とか、災害から受けた経験を次のまちづくりにどのように生かしていくかという視点を重視して、まちづくりを進めていかなければいけないということを市の内部で議論しまして「防災環境都市」ということを書いております。まさにご指摘のあったように、市の内部だけが分かる部分もありますので、そういったところを丁寧にご説明しながら、舟引委員からありましたように、グリーンインフラによるまちづくりが災害の発生を抑えたというようなところもありますので、今後この部分の記載の中でも適正に反映できるように調整してまいりたいと思っております。

○渡邊浩文部会長

舟引委員、どうぞ。

○舟引敏明委員

防災政策そのものを否定しているわけでは全くありませんし、おっしゃった通りなのですが、本当に防災で仙台の未来をセールスして大丈夫ですか。ここはちょっと立ち止まって考えた方がいいのではないのでしょうかということです。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。このところについてはこれからも、それこそ3回の部会が予定されておりますので、都度議論し、然るべき表現にきちっとまとめていくというようなプロセスを取りたいと思います。ご指摘ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

もう少し先に進めていただくということにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

ではⅢ章に引き続きⅣ章。10ページからその裏面である11ページにかけてまとめ、頭出しをしてある「本市が大切にする姿勢」というところです。先ほどもご説明ありましたけれども、協働のまちづくりですとか、大都市としてのまちづくり、そして市役所経営というようなお話もちらっとあったかと思いますが、全体会の方では個別にここを取り出し

て審議ということはしておりません。7つの視点というものを審議している中で関連するご意見をいただいたというぐらいの段階だということです。ですので、審議経過の方でもあまり記載としては触れる量が少なかったわけです。そこで、今回改めて事務局から案として出てきたというところになろうかと思えます。

先ほど来、議論もしくは話題になっておりますが、挑戦ですとか、このページですとチャレンジという言葉が目にとまりますが、チャレンジだとか、後は多様性といったような言葉はある程度、方向性としてはまあ共有できているかなというようなところとは思いますが、改めてここに出てきたというようなことも踏まえて、ご意見を頂戴できればと思うところです。いかがでしょうか。

1の「チャレンジ協働まちづくり」のところは(1)として「政策形成への市民参画促進」、(2)として「新たな価値創造へのチャレンジ」と。ここは1のところにサブタイトルが波線が入っていますが「ともに考え、新たな価値を生み出す」というような見立てにしていると。2番としては「多様性が活きるまちづくり～多様性をまちの豊かさにつなげる～」と。こういった見出しの文言はこんな感じだろうというところもあるかと思うのですが、その中点のところ辺りからでしょうか。いろいろとお気付きのことでもあるのではないかと、皆様のご意見を待っています。

竹川委員、どうぞ。

○竹川隆司委員

少しお話しさせていただければと思うのですが。私は自分が特に取り組んでいることに近いところ、1の(2)の「新たな価値創造へのチャレンジ」というところで2点ほどあります。細かい言葉尻でもいいですよ。

「企業、大学、行政など多様な主体間で」とあるのですが、最後の「創り出す風土の構築」は、風土だけだと弱いので、制度の構築のような何か仕組みづくりのところも入れた方がいいのではないかなと思いました。

2点目も同様なのですが、「社会的インパクトを生み出すチャレンジの推進」と最後にあるのですが、そのゴールとして都市個性の質の向上しか書いてなくて。都市個性の質の向上だけが社会的インパクトを生み出すチャレンジの推進につながるとは思えないので、それより前に「社会課題、地域課題の解決や都市個性の質の向上を目指して」というような形でゴールをもう少し広げた方がいいのではないかなと感じました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

飯島委員、どうぞ。

○飯島淳子委員

IVのところは施策全般に共通するというもので、前から出てはいましたが、SDGsについて少し申し上げたいと存じます。SDGsをこのような形で施策全般に共通する大切にする姿勢として打ち出す必要があるかどうかについて議論することには全く異存はご

ざいませんが、あえてSDGsにどこまで本気で取り組むのかについて懸念していることだけ申し上げます。

まず、国連による国際的・普遍的な実体的価値を掲げるということは、ある意味では自治との緊張関係に立つのではないか。自治というのは住民が自主的に選択することであるので、SDGsを掲げることは、その選択の余地を狭める、価値の押し付けという側面を持ちうるのではないか。

2点目は、SDGsの17の目標は広範にわたるもので、それぞれで議論してきたことと内容が重なることもありますので、ロゴマークをただ当てはめる形で掲げることだけだとすると意味はないのではないか。

3点目は、この指標について、そのままでは使えないということはよく言われているかと思えます。内閣府の地方創生の方でSDGsローカル指標リストというものを作って示していると聞きました。ただそれも、そのままでは使えず、仙台市でその指標を設定することが必要です。そこまでしてSDGsを横串的にこの総合計画でやることとするのか。若干の懸念だけをあえて申し上げます。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。これについて、事務局いかがでしょうか。

○梅内まちづくり政策局次長

私どもの方でも非常に悩んでおりまして、おっしゃる通りまさにSDGsは非常に広範な17の目標であります。私どもの方もSDGsに関する内閣府の委員をされているような先生に来ていただいて、管理職と勉強会をしたりしております。その際にも、委員の方からは、やはり世界共通の目標でありますので、仙台にふさわしいものをそれなりに編集して使うべきだということで、仙台でSDGsをやるという時に、どれを使うのかとか、どれをより強調していくのかというようなことが大事なのだというご指摘をいただいております。それについても内部の方でも検討を始めているところでございます。

よく言われるローカルとグローバルの話でありまして、まさに仙台のローカルな計画、総合計画を作ろうという時なのですけども、やっぱりグローバルの視点を取り入れなくてはいけないという時に、SDGsをどのように編集してこれから取り組んでいくか。先ほどの舟引委員のお話なども実はこういったところにつながってくると理解しておりますが、そういったことも課題だと思っております。今の段階ではその辺の編集が少しうまくできておらず、17の目標を並列で提出している状態でございます。ご指摘の通りだと思っております。

○舟引敏明委員

第1回の審議会でSDGsの話をしたのは私のような気がするのですが、あの時申し上げたコンテキストは、「SDGsに配慮します」と免罪符のように書くのではなくて、同じ2030年までの目標年次の計画だから、この総合計画ができた時にSDGs目標に照らしてどうかというふうに必ず問われると。その時にはどれだけできちんと満たせてい

るのか満たせていないのかというようなことは、その途中、最初から盛り込むということではなくて、盛り込んだ、つくり上げていった施策の横串で必ずチェックをしておいて、不足する部分が大幅に出てくるようなところはきちんと配慮しなければいけないというように、むしろチェック機能としてSDGsの仕組みを使っておかないと、痛い目を見ますよというような趣旨で申し上げたかと思えます。

○館田あゆみ部会長代行

昨日東北大学のシンポジウムが東京の大手町でありまして、その時にあの落合陽一さんが基調講演されてSDGsの話をされたのですが、皆さんいろいろところで掲げて、でも中身を分かっている人はほとんどいませんよねという話をされてというところから始まりました。SDGsのこの考え方というのは非常に皆さんに浸透させるべきものであるのだけれども、掲げただけでは意味がないので、例えばパスワードでもいいのですが、どういうテクノロジーを使ってどこの分野でというのを個別に紐付けてというような、できるだけ具体的なストーリーを作って提示していかないとSDGsなんて何も実行できませんよねというお話がありました。昨日はその1つの事例として、落合さんはこんなことやっていますという例として、肢体不自由の乙武洋匡さんに義足をつけて歩いてもらうというプロジェクトが紹介されました。今の世の中、若い人たちは自分の手足が十分揃っていても、逆にこういうおしゃれな足をつけたいとか、こういう肘にこんなものを自分で取り付けて強力な腕にしたいとか、そういうダイバーシティがむしろ進んでいくことになるのだけれども、そういうのもこのSDGsの中に1つのすごく具体的な事例として1個1個入れていくことが重要なのではないですかというお話をされていました。

今日資料を見させていただいて、Vの重点プロジェクトになってしまうのですが、1個1個のSDGsにこの項目がはまりますというようなことが書いてありますが、最初に若い方々によるせんだい未来会議からの提言があったのですが、あれをもっと具体化してストーリーにしていくと、すごくこのSDGsの中にはまるのかなと思いました。そこでいかに仙台らしく個別のストーリーを作っていくのかみたいなのを考えてもいいのかなと思いました。

あともう1つだけ。11 ページの下の方の(2)、持続可能な都市マネジメントのところなのですが、ここまでの1、2、3、4の姿勢と比べるとちょっとこの都市マネジメントというところの書きぶりが何か小さくなってないかなという気がしました。財政の運営とかは必要なので書いた方がいいと思うのですが、特に下の2つのところが何か少し書き方が違うかなという気がしました。「AIやRPAなど新たな」と書いてあるのですが、既に新たなでもないと思いますし、「新たなテクノロジーの活用」ぐらいに留めておいてもいいのかなと。個別のワードを入れるとすぐ古くなってしまいますので、「オープンデータの推進と活用」というのも新たなテクノロジーの活用の中に入れてしまってもいいのかなと感じました。

○渡邊浩文部会長

菊地委員、どうぞ。

○菊地崇良委員

10 ページ 11 ページに関連してですが、「本市が大切にする姿勢」とあって、都市経営については、市が都市経営を行うということだと思いのですね。1つの主体としてはその行政体としての市と、それからもう1つはそこに住まう市民、人々の主体、主語というのが必要だと思いのです。そうすると例えば1つ目の「本市が大切にする姿勢」の2行目、市が都市経営を行う、それは市民が協働の理念のもとということだと思いのですね。そうやってずっと見てくと、どうも以前もお話ししたのですが、これからの持続可能な社会を作るためには、行政だけではなくて市民そのものの自主、自律、自発的な行動が大事だというふうに言ってきたのだけでも、その部分がどうもしっかりと反映されていないような気がします。例えば1の(1)、政策形成の云々とあるのだけど、政策形成だけなのですかと、違うでしょうと。実施段階における市民の参画ということもあるのではないかと。そうして見ていくと、例えば「4 持続可能なまちづくり」の中の(1)は持続可能なまちづくりに向けた世界共通の目標を言ったのはいいですが、(2)に持続可能なマネジメントのために行政はこれをやると、そうしたら本当は(3)で、市民とか多様な主体はどうなのかも書かないと、計画は作るけども、それを推進する主役が見えなくなってくるのではないかと思うので、そこはもう1回整理してもらった方がいいかなと思います。

○渡邊浩文部会長

榊原委員、どうぞ。

○榊原進委員

僕も菊地委員と同じような違和感を持っていて、そのⅢ章までの目指す姿というのは計画の対象にもあるのです。その関わる人みんなで目指している姿を言っているのですが、急にⅣになると「本市が」という、市役所が大切にしたい姿勢を言っているような「政策形成への参画」と言った段階で、市役所が形成することに對し市民が参画するということを行っているので、ⅢとⅣのつなぎという意味では、市役所だけではなくて計画に関わる対象がどういう姿勢で取り組んでいくべきかという視点が必要です。菊地委員がおっしゃったことと僕の違和感が一緒だなと思っていました。

そういった意味で、3の(1)とか「地域目線のまちづくり」というのは、仙台市が行う上でそれは必要ですし、区役所を想定して書いていると思いますが、市役所がやることはもっと後ろに来る話だと思うので、「新たな杜の都に向けて」目指す都市の姿を実現していく上で、関わる人が本当に大切にする姿勢というのは何なのかというのをここでイメージした方がいいのかなと思いました。

○渡邊浩文部会長

今委員、どうぞ。

○今里織委員

私も同じところにずっと違和感を抱いていて、何だったのだろうという、菊地委員が今おっしゃったことでちょっと目覚めた感じがします。やはり主役となる人たちはそこに住まう人であるとか、仙台に通っている人たちであろうと思っています。10ページの「2多様性が活きるまちづくり」というところなのですからけれども、「すべての人が包摂される社会づくり」というところはもちろんその通りだと思うのですが、主役を「人」としていった時に、書き振りが変わってくるのではないかと感じているところです。そうなった時に、例えばなのですけど、7ページの都市個性の共生の目指す都市の姿の下のところ、多様性が社会を上手く動かすのではなくて、多様な人たちが社会を動かしていく。社会が動くのではなくて自分たちが動かしていくのですというような書き振りの文章にした方が、私の中ではすんと落ちるなと思っておりました。そんな視点で一度見てみると、もう少しほかの部分も気になる部分が出てくるかと思いました。今具体的にここがこうでと言えなくて申し訳ないのですが、そんな感想を持っています。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。大事なご指摘かと思えます。ほかいかがでしょうか。

そろそろ7時半になりますが、もう2つ、大きく分けても2つありますので、さらに進めていきたいと思えます。今のように、都度ですね、戻ってご指摘いただくのはもちろん構いません。

次はV章の「重点プロジェクト」です。ここは少々ボリュームがありまして、12ページから24ページまでになります。審議経過の方では7つの視点として取りまとめられていたところですが、部会では、より具体的な施策イメージにつながるような、もしくはそこを深掘りするというようなことで、この12ページで言いますと、1には7つの視点を、2には7つの視点と6つのプロジェクトの関係性、6つのプロジェクトは視点①から⑦までの掛け算にして見立て、再構成されていることが示されています。さらにその下に3として、2つの部会があるわけですが、「地域とくらし部会」は、主には担当が2、3、4のプロジェクトで、我が方の「まちと活力部会」の所管は1、5、6だとまとめてあります。

議論したいのは、再構成されて示された6つのプロジェクトについてです。まあそもそも6つで良いのかということも含めて、大枠としての議論をまずは頂戴して、その上で、おおむね増減があるにしても、この部会としては1、5、6のところ、重点を置いて議論をしていく必要もあるわけです。6つのプロジェクトという枠組み、それを踏まえてこの部会が主に担当するこの3つというように、議論を整理しながら進めていこうと思っております。

まずはこの6つでいいのかというようなところについて、もしくはこういう表現ではない方がというようなこともあるかと思えますが、ご意見を頂戴したいのですが、いかがでしょうか。この辺はかなり具体的になってくるので、それぞれが思い浮かべるところも実は微妙に違ってくるということもあるでしょう。忌憚なくご発言いただければと思いま

す。

舘田部会長代行、どうぞ。

○舘田あゆみ部会長代行

中身ではないのですけれど、この視点の①から⑦とプロジェクトの1、2、3、4、5、6が結構個人的には混乱しまして、視点の辺り、例えばABCとか何か別の表現の方がいいのではないかなというのが1つの意見です。

後もう1つ、先ほどSDGsのところで言ったのですが、後ろの方の各プロジェクトの中に具体的なストーリーみたいなものが1個ずつでもいいから例示されていると市民の方とかが読んだ時に身近に感じるのかなと思いましたので、この後の作業になると思いますけれども言わせていただきます。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。後は6つでいいのかなという議論にこだわっていても、これまた議論の進まないところですので、このプロジェクト、まずは我が部会としては1、5、6なのです。そこを重点的にご意見頂戴したいところではあるのですが、それに限定しませんので、プロジェクト1から6までについて中身も踏まえて、この在り方のところまで議論を広げていただいてもよろしいかと思いますが、いかがでしょうか。

今日まだご発言のない方が半分ぐらいいるのですけれども。

姥浦委員、どうぞ。

○姥浦道生委員

印象としてこの7つの重点的な取り組みの視点と6つのプロジェクトの関係性が少し非常に見づらいなど。もう少し言うと議論を都市個性からスタートしているからなのかもしれないのですけれども、全体の流れがプツプツと切れている感があるので、この流れをもう少しうまく作ってほしい。なぜこのプロジェクトになっているのかというところが見えるといいなと思いました。それが見えると何が足りているのか何が足りていないのかという辺りが見えてくるのかなという気がいたしました。

それからもう1つだけ申し上げると、舟引委員のご意見と近いかもしれないのですが、最初に東日本大震災が来るのはどうかと思うところです。防災というのは非常に大切に仙台が何というか、前面に出して行かなければいけない部分の1つではあると思うのですが、ただやっぱりいざという時にどうするかというバックアップ的な意味が強いのかなと思っています。もう少しチャレンジであるとか、そういう積極的な言葉をもう少し前面に出しつつ、防災はそれをちゃんとバックアップするようなものとしてというような形で何か全体の構成ができるといいのではないかなという気がいたしました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

庄子委員、どうぞ。

○庄子真岐委員

私も被ってしまうのですが、最初にこの「環境」のところで、たぶん審議会での議論では、杜の都の深化のようなものが最初にあって、それだから全体を支えている、それがメインだったのだと思うのです。まちづくりの理念にそれが移ってしまっているのです。そうすると「世界を牽引する防災環境都市」や「環境」が最初ではなくて後ろに来た方がいいのかなとか、挑戦を続けると言うのであれば、「活力」から入った方がむしろいいのではないかなとなると、これまでの審議自体を見直していかなければいけないのかなというところで、頭がストップしてしまっておりました。

少々戻るのですが、10 ページの2点目で、「より良いまちを作るために多様な主体がそれぞれのチャレンジを探し、目標に向けて力を発揮していく」と書いてあります。そうすると多様な主体がそれぞれ目標を見つけてそれぞれ何かやっていくとなりまして、多様性が活きた感じがあまりしないのです。なので、多様な主体と一緒に連携をして、多様な視点を持ちながら何か事業を進めていくのが強みだと思うので、ここは下とも合わせながら表現を変えていただきたいなと思っていました。

それから、「地域目線のまちづくり」なのですが、地域目線のまちづくりが「大都市としてのまちづくり」に入っているのがすごく違和感を覚えて、地域目線はすごく大事なのですが、それならば「チャレンジ協働まちづくり」のところに、姿勢でしたらあってもいいのかなと、「東北の可能性を開く」というのと「地域目線のまちづくり」は少し位置が違うのかと思っておりました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。遠藤委員いかがですか。どんどん当てていくことにしました。

○遠藤耕太委員

7つの視点と6つのプロジェクトというのがなかなか私の頭にすっと入ってこなくて、本当に頭が止まったなっていうのを実感しております。その中で、これが市民向けに出るのであればもう少しやさしいような内容にしてもらえるといいなと思った次第です。

それと、「杜の都・仙台」とはいつまで続くものなのかなと考えていました。先ほど中高生会議の報告書の中に、「杜と海の都」というような表現がありましたが、私にはそのインパクトが大きかったです。「杜の都」とは実際どこまでの範囲を言っているのか。震災以降、東部地区には本当に杜というかそういう緑がなくなっていました。中山間地、仙台駅から西側の方がもちろん杜は多いわけですが、現在の仙台とは本当に「杜の都」なのかと疑問に感じているところです。その辺もう一度立ち止まって考えてみたらいいのではないかと最近思っていました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。一通り伺いますが今野委員いかがですか。

○今野薫委員

全体拝見をさせていただいて、特に奥村委員がおっしゃっていたように、掛け算、掛け算という考え方が非常に面白く出ているな。これが、1つ1つの言葉に相乗的な効果が出てくるような感じになるのではないかと考えています。

すみません。個別については、まだもう少ししっかり読み込ませてくださいということになるのですが、先ほど庄子委員がおっしゃったように、私も10ページのところの地域目線のところが気になりました。ただ先ほどのご説明でいくと、ここにこれから区ごとの計画が入ってくるご予定ということを知っていましたので、その辺りのところ全体とのボリュームバランスも含めて、どういうふうになってくのかなと、逆に懸念をさせていただいた次第です。

○渡邊浩文部会長

浜委員には最初にご発言いただきましたけども、どうぞ。

○浜知美委員

私もやはり世界に通用する仙台みたいな形で、仙台とはこういうまちなのだという、世界から分かるような、これまでもいろいろ仙台市は掲げてはいるので、そういうふうにやった方がいいなと思っています。Ⅲ章に「笑顔はなまる子どもプロジェクト」とあるのですけど、国際感覚を磨くことは子どもにとってすごく大事です。この文言の中に国際関係のことが1つも入っていないので、子どもが世界に通用するようになるためには、子どもが外国に行ったり、双方向で交流できたりするような形をとらないと難しいと思うので、そういう視点を入れられればいいのではないかと考えて見っていました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。渡辺委員からも是非ご発言を頂戴したいと思います。

○渡辺敬信委員

先ほどお話ありましたけども、この総合計画というものはそれこそ市民の方、また、さまざまな方々に発信をしていくものだとして認識しておりますけれども、一般の市民の方々がこれを見た時に、果たしてこれってどういうまちなのというほど専門用語が並べられていて、なかなか理解するのが難しいのではないのかなというふうに率直に思いました。例えば用語の解説などは、市民の方々がもっと理解しやすいような表現の方法を工夫できないものかと感じております。

○渡邊浩文部会長

一通りご発言いただかなければということではほぼご指名に近いような形でご発言いただきましたけれども、やはりこの僕も、部会長の立場であまり意見を言うべきではないと思ってはおるのですが、個性ということがあって都市像という言葉があって、大切にその姿勢が間に入ってきて、その後の重点プロジェクトではその都市像に向かってプロジェ

クトが整理されているわけではなくて、7つの視点からプロジェクトが整理されています。姥浦先生がご指摘されていましたが、そこで大きなギャップがあるので分かりにくくなってしまっているような気もするのです。普通に考えていくと、こういうふうなことを目指していこう、ではそのためにこういうようだという感じになるのかなと思うのですが、そこが何かこう上手くしっくり来ない。少々難しくなっているのかもしれないので、そこはもう一工夫必要かなというような気もしたところです。

そのほかいかがでしょうか。あともう少し、VI、VII、VIII、IXは5分ぐらいで片付けましょうというくらいのつもりではいるのですけれども。一通り最後まで行って、その上でというふうにしましょうか。

では、重点プロジェクトについての議論はまだまだこれからだという感じであるという認識を一応共有した上で、今後第2回の部会以降でもさらに検討を加えていくということに、まずはいたしましょう。

この資料で言いますと、25ページからになりまして、またここから真面目に取り組むと大変なところですが、このVI章の「基本的な施策の方向性」、それからまさにこれからなのでしょうけど最終ページの「区別計画」、「進行管理の方針」、「資料編」というところも、一応今日の議題の、議論の対象にはなっております。今日の段階でどこまでどう議論するのだというようなところはあろうかと思しますので、今日のところはまずは、この程度であっても何かお気付きのことですとか、ここはもう少しこういうふうにしたほうがいいのではないかということもあろうかと思しますので、そういうぐらいのレベルのご意見、ご感想でも結構ですので、あれば頂戴したいと思います。

舟引委員、どうぞ。

○舟引敏明委員

現実に今動いている施策を最終的には拾って載せていかなければいけないという非常に大変な作業であることはよく分かるのですが、Vで出てくる幾つかのプロジェクトのキーワードとVIで出てくる(1)(2)からずっと並んでいるものが全く対応しておりません。どこかでボトムアップの作業は必要なのだけれども、先ほど部会長おっしゃったように、上から順番にロジックを下ろしていく作業をもう少し明確にしておかないといけないと思います。たぶんその中で、ひょっとしたらもうこの施策は次の10年はやらなくていいのではないだろうかというものすら出てくるようなこととなります。本来10年計画というものは、それを見て新しいものを入れていき、時代遅れになったものを止めてしまうという結構乱暴な作業がこの裏にあるのですが、その乱暴な作業をやるための理念は上から下りてこないといけないという部分を少し意識してつなげたらよろしいのではないかと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。僕からも少しだけいいですか。今の舟引委員のご指摘と基本的には同じなのですが、これまでの総合計画のようなものを見ると、この後ろの部分というのですか、こう言うと少し失礼にあたる部分はあるかもしれ

ませんが、特に「区別計画」というものの位置づけが何とも「付けときました」みたいな感じにどうしても見えてしまうというところがあります。仙台市は5つの区を持っていらっしゃるのでも区別計画というところまで落とし込む必要があるものの、何で区別計画になった途端、何か輝きが損なわれてしまうのかなというような感じも受けました。挑戦というようなキーワードで未来に向けてと言うようなことだとすると、こういったところまで丁寧につくり込まないといけないのではないのかなと思ったものですから、発言いたしました。

ほかいかがでしょうか。もうこのこれぐらいの段階ですので、もうどんどんおっしゃっていただいてもよろしいかと思えますけれども。

今委員、どうぞ。

○今里織委員

すごく細かい所かもしれないのですが、VI章でそれぞれの項目に分けられて(1)(2)(3)というふういろんな部分がかかれているのを見た時に、曖昧な言葉が少し多いかなと思いました。例えば、多様性とか多様なということですか、社会に生かせる、社会とは何のことを言っているのかなみたいな。地域社会と言うと、自分が住んでいるその周りということになるのかもしれないのですが、仙台市と言った時に全体のことになるのか何を指しているのかなというようなところが少し気になりました。

「学び」の部分で「(3) 多彩な学びを楽しみ社会に生かせるまちづくり」というところは、ここは何か分からなくもないかなと思うのですが、「社会」とは何だろうとか、その下の「活力」のところの(2)に「多様な人材が活躍し、社会のイノベーションを生み出す」とありますが、「活躍し、イノベーションを生み出す」だけでは駄目なのかなとか、何かそういうところが少し、言葉が付いていることで分かりにくくなっているような部分があるかなと思いました。

そしてもう1つ、「多様な」という言葉があちらこちらに出てくるのです。一人一人が活かせるという、一人一人が活けると言うのはすごく伝わってくるので、思い切ってそれを取ってみてはどうでしょうか。それを取った時にどうなるかと思いながら見ておりました。表現の部分ですが、よろしくをお願いします。

○渡邊浩文部会長

榊原委員、どうぞ。

○榊原進委員

「本市が大切にする姿勢」に入れていけるのではないかなと思います。「多様性」とかの共通する言葉が本当にいっぱい出ているということですが、「目指す都市の姿を実現するために本当に大切にしたいものはこれです！」というキーワードでもいいと思います。それはもしかしたら視点でも同様かと思えます。7つの視点は仮置きのもので、そのまま

プロジェクトになる可能性もあるということでもあったわけですが、この視点がずっと生きていて、掛け合わせでプロジェクトになったということにより分からなくなっている部分もあります。もう少し視点とプロジェクトはガラガラポンしてしまってもいいのではないかというふうに思いました。もう言葉は別としても目指す姿という目標があって、それを実現するために共通する大切なものがあって、では具体的に何をやるかというシンプルな構成にしたほうが今の段階で分かりやすいかと思います。

特に「重点」と言うとは何を持って重点と言うかとなります。先ほどの姥浦委員の話もそうなのですが、予算を潤沢につけるものなのか、多様な、関われる主体が本当に多いものなのかとか、どうしてこのプロジェクトが選ばれているのかという、そのルールや基準というものが、最終的に計画に落とし込まないにしても、ベースとしてこの俎上に乗せていただくと、これから議論しやすいかもしれません。何となく最終形のイメージはあるのだけど、1回崩してみてもう少しシンプルに見た時にどうかという、審議する側にも余白を提供していただけると、いろいろ議論できるかなと思いました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。あと5分少々という感じですし、ご意見もどんどん遡ってご意見をいただいているような感じもしているのではよろしいかと思うのですが、改めて残り5分程度の中で、議論は遡っていただいて結構ですので、このところをもう一言言っておきたいということがあれば是非頂戴したいと思いますけれども。いかがでしょうか。

庄子委員、どうぞ。

○庄子真岐委員

目次を見ていた時に本題入るまですごく長くて、手に取った市民が重点プロジェクトに行き着いてくれるかなということが、すごく感じたところです。目が泳ぐというか、姿勢なのか視点なのか個性なのか分からない。そこはすごくシンプルにさせていただきたい。最近ですと、例えば、最初にプロジェクト、取り組むことを出して、「時代背景と本市の現状」とかは後付けでもいいのではないかなと思います。その中で特に「仙台市のこれまでの歩み」、歴史を戦後復興期から振り返るみたいなのが第2章に入っているのですが、この辺も何かのまちづくりの視点からぱぱっとまとめていただき、後ろの方に年表を載せるぐらいで資料に持って行ってしまって良く、この下の「課題認識と仙台市の強み」に流れるような感じで、小項目ぐらいでもいいのかなと思ったところです。

○渡邊浩文部会長

竹川委員、どうぞ。

○竹川隆司委員

同じようなラインなので申し上げさせていただきます。起業支援する時に、事業計画がめちゃくちゃになっちゃった時に、WHY、WHO、WHAT、HOWは何だったかというところに立ち返るのですね。それに照らし合わせてこの構成イメージを見た時にいらな

いところが結構あるということをおもいました。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの最初ぐらいがWHYで、たぶんWHOが個性で、姿勢は実はいらなくて、重点プロジェクトも視点とプロジェクトみたになっているので最初の7個で実は良くて、HOWの部分でそのプロジェクトがばらばらに出てくるみたいな感じが本当はいいのかなと。構成だけ見ているとおもいました。我々がやっているフレームワークに則ると、3W1Hに戻るのはやり方の1つとしていいのかなとおもいました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。
菊地委員、どうぞ。

○菊地崇良委員

まちづくりの理念、目指すべき都市の姿、どこを見ればいいのかなと。例えば「挑戦を続ける、新たな杜の都へ」。あまりにも大きすぎて、もう少し説明が必要なのかなと思っています。私の認識不足だったらすみません。

もう1つが、これも言うかどうか悩んだのですが、6ページ、「世界を牽引する防災環境都市へ」、挑戦を続けるということから、世界を牽引すると大きな目標が出たのですが、本当にできるのかなと。自衛隊は世界に行って災害派遣しますが、仙台市がどこかの都市に行き、何か牽引するほどになるのだろうか。となると私たちが得た教訓、体験を発信してそれに感じてもらうことが実際のところであって、「発信」ではないのかなと。挑戦という気持ちを入れた意図も分かるのですが。

○渡邊浩文部会長

後半になってどんどん意見が出てまいりまして、うれしく思っております。
いかがでしょうか。特にということであれば、今日のところはこの程度にしておくということにいたしましょうか。ありがとうございます。さまざまにご意見いただけて私自身にとっても大変参考になりました。

榊原委員、どうぞ。

○榊原進委員

都市個性の「環境」の中に、「杜の都」の由来などが書かれていますが、緑を育ててきた人々の思いということがあって、丘陵部の話だとか屋敷林の話だとか、今は市街地化された青葉通、定禅寺通の話も出てきて、公園の話も出てきています。それから震災で津波被害を受けた沿岸部の多くは生産緑地、田園です。防潮林の再生を中心に「ふるさとの杜再生プロジェクト」が進行中で、この間も育樹会がありましたが、まだ樹高1m未満で、次の世代に引き継ぐにはまだまだの状況です。その「環境」とか「防災環境都市」という時に、そこをどう杜の都として捉えていくかという視点が、中高生会議の提案にもある「海

の都」という話で、私は「仙台海手（うみのて）」と言っていますが、「山手（やまのて）」に対して「海手」を含めた仙台、杜の都という意識をしっかりと位置付けておくべきだと思います。そのためには、海手にある農地や居久根、防潮林などをしっかり次の世代に継承していかなければいけないし、そういう視点が都市個性の中に含まれていません。西側の山手は奥羽山脈から続いていて、里山があって水源地にもなっています。都市での私たちの生活を支える生産緑地だったり水源であったり、そこも含めて杜の都仙台にはそういう環境があるよと、リスペクトする視点というものも少し入れておいた方がいいのではないかと思います。私たちの生活に直接関わりがないように見えていても、実はすごく関わりがあるなあというところがあって、そこを少し丁寧に紐付けてというか、記入した方がいいのかなと思いました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。よろしいですか。
では、まずはここまでとしたいと存じます。

(3) その他

○渡邊浩文部会長

次第ではその他とありますが、特にこちらでは用意してはいないのですが、皆さまの方で何かおありであれば。
よろしいでしょうか。

5 開会

○渡邊浩文部会長

では本日の議事は以上で終了といたします。次回以降の部会で議論を進めていきたいというように思いますので、引き続きよろしく願いいたします。
最後に事務局から何かご連絡等々あればと思いますがいかがでしょうか。

○松田政策企画課長

事務局から、1点ご連絡がございます。次回の審議会部会の日程についてです。お手元の座席表の裏面に、今後の日程について記載しておりますのでご確認いただきたいと思います。次回の第2回まちと活力部会は、12月3日（火）18:00から開催したいと考えております。場所は、ここと同じ第3委員会室、この場でございます。ちなみに、もう一方の「地域とくらし部会」は翌日の12月4日（水）の開催を予定しております。

○渡邊浩文部会長

それでは、以上をもちまして本日の審議会部会を終了したいと思います。
どうもありがとうございました。